

授業改善推進プラン 5年

令和7年度 小平市立小平第十三小学校

	身に付けさせたい力	手だて
国語科	・筋道を立てて話したり、話し手の意図を考えながら聞いたりする。	・事前にスピーチメモや計画書を作成させるなど、円滑に話すための計画を立てさせる。 ・聞き手に伝えたい内容、声の大きさ、話す速さなど自分の課題を意識させる。 ・聞き手の立場から、話し手の話し方の良いところや伝えたいことを感じながら聞く活動を取り入れる。
	・自分の考えの中心をはっきりさせ、読み手に分かりやすい文章を書く。	・自分が一番伝えたいことを明確にし、構成メモを作るなどしながら、書く内容や順序を整理して書く活動を行う。 ・「始め・中・終わり」の文章構成や自分の主張を意識して書かせる。 ・学習者用端末を活用し、タイピングで文章を打ち込む活動も取り入れる。
	・文章の内容を的確に押さえながら、要旨を捉える。	・内容を大まかに捉える活動を学級全体で行うとともに、グループ学習も取り入れることで、児童一人一人が読解の根拠となる部分についての的確に捉えようとする機会を設ける。 ・学習者用端末を用いた児童相互の交流を通して、読み取りの内容をより深めさせる。
社会科	・地図帳や統計、年表などの複数の資料を通して情報を適切に読み取る。	・索引の使い方、各種グラフや統計資料の読み取り方など、様々な資料を活用する練習を行う。 ・資料の中の共通点や相違点に注目して読み取らせる。
	・日本の国土や産業についての課題をもち、すすんで調べる。	◎学習問題を明確にした上で調べ学習を行い、分かったことを自分の言葉でまとめさせる。 ・地図帳や地球儀を活用し、世界の主な大陸と海洋、国の名称と位置関係について調べ、正しく理解させる。
	・よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする。	・貿易や国際交流、SDGsなど、あらゆる場面での世界各国との結び付きを調べ、理解を深めさせる。 ・国際社会において自分がどのように関わっているのかを考えさせる。
算数科	・学習課題に意欲的かつ粘り強く取り組む。	・既習事項を活用した課題解決の方法を考え、表現させる。 ◎習熟度別コースの実態に応じて、全体で考える時間をとり、課題解決の見通しをもたせる。 ・デジタルドリルのAI機能を活用し、個々に合った課題に取り組ませる。
	・小数の乗法や除法などの基礎的な計算力を身に付ける。	・ベーシックドリルやデジタルドリルなどを活用し、4年生までの内容も含めて、基礎・基本の定着を図る。 ・授業の始めの時間や朝学習の時間などにおいて、紙・デジタルの両面で繰り返し演習に取り組ませる。
理科	・物の変化の仕方や規則性について調べ、まとめる。	・身近な事象を提示して、学習問題を立てさせる。 ・問題に対する答えを予想し、観察・実験を行い、その結果を受けた考察を自分の言葉でまとめるという学習の流れを定着させ、科学的な事象についての理解を深める。
	・生命の連続性、流水の動き、気象現象の規則性について調べ、まとめる。	
音楽科	・パートの役割を理解して、友達の声や音と合わせて歌ったり演奏したりすることができる。	・互いの演奏を聴き合ったり、自分のパートと他のパートとの関わりを意識させて演奏したりする機会を設ける。
	・思いや意図をもって演奏したり音楽づくりをしたりできる。	・思いや意図を音楽表現につなげるために、曲想を表現できる言葉や話型を活用して、自分の言葉でまとめさせる。
図画工作科	・想いや発想を生かして、決められた約束の中で作品をつくらることができる。	・経験した事を生かし、新たな材料や道具を用いて、発想を広げる。
		・個々の児童の得意な部分を生かしながら、その他の分野についても技能が向上するように指導する。
家庭科	・家庭生活に必要な知識や技能を身に付ける。	・手縫いの練習時間を多めに設けるようにし、習熟させる。
		・調理実習を通じ、調理器具を安全に使えるようにする。
体育科	・自己の課題を把握し、練習方法や運動の仕方を選択したり工夫したりさせることで、体力向上を図る。	・運動の楽しさを味わえるように、場の設定や教材教具、技能ポイントの提示などを工夫する。 ・自分の体力に合わせた課題を設定したり、達成できたかどうか自己評価したりすることができる学習カードを活用する。
特別の教科 道徳	・自分の生活を振り返り、長所や短所を受け止め、伸ばしたり改善したりしようとする態度を身に付ける。	・互いのよさについて考え、伝え合う機会を設ける。 ・毎時間の最後に、自分の生活を振り返る時間をとる。 ・規則を守ることや善悪の判断など、正しい行動について考える時間をとる。
外国語科	・実際のコミュニケーションの場面において活用できるような基礎的・実用的な技能を身に付ける。	・ALTを活用し、ペアや少人数グループなどでのやり取りを増やし、相手意識をもたせたコミュニケーションの機会を確保する。

手だての ◎ は令和7年度の学年における指導の重点を示します。
手だての下線部は、改善に向けた具体的な方策を示します。